

会 議 録

会 議 名		令和 6 年度 第 2 回 川西市社会教育委員の会	
事務局		市民環境部 生涯学習課 (内線 4567)	
開 催 日 時		令和 6 年 12 月 25 日(水)15 時～16 時 55 分	
開 催 場 所		アステ川西 5 階 ルーム 500	
出 席 者	委 員	野崎議長、常行副議長、柏木委員、川野委員、倉橋委員、 三善委員、升村委員、大西委員	
	そ の 他	テーマに係る担当所管 三石教育保育課長、山守教育保育課主査、足立指導主事	
	事 務 局	岡本市民環境部長 篠内市民環境部副部長(生涯学習・図書館・公民館担当) 木田生涯学習課長、尾屋生涯学習課長補佐、	
傍聴の可否		可	傍 聴 者 数 1 名
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会 議 次 第		別紙のとおり	
会 議 結 果		別紙のとおり	

審 議 経 過

1. 開 会

2. 市民環境部長あいさつ

- ・年末の押し迫った時期に出席していただき、感謝する。
- ・現在、北部地域のまちづくりについて検討しており、その中で東谷公民館と緑台公民館について検討している。

東谷公民館は、存地で今の施設をそのまま使用するが、緑台公民館は非常に老朽化しており、運営が難しくなってる。

北部地域のまちづくりの計画の中では、緑台公民館は複合化した上で建て直しを検討している。

3. 自己紹介

1 回目の会議で欠席の委員がいたことから、改めて自己紹介を行った。

4. 報告

令和 6 年度第 1 回社会教育委員の会以降に委員が出席された各会議について、会議概要等について報告がなされた。

報告がなされた会議

- ・「令和 6 年度近畿地区社会教育研究大会」(令和 6 年 9 月 6 日開催)
- ・「令和 6 年度第 66 回全国社会教育研究大会」(令和 6 年 10 月 24 日開催)
- ・「令和 6 年度兵庫県社会教育研究大会」(令和 6 年 11 月 27 日開催)

5. 議題

学校運営協議会制度への社会教育の関わり方

本市地域学校協働活動の現状と課題について

令和 3 年度に「地域学校協働活動の推進に向けて」社会教育委員の会が提言書を交付していることから、その提言内容における現状と課題、成果について、担当所管から説明を行い、その後、本市の学校運営協議会制度へ社会教育がどう関わっていくか協議を進め、各委員より、次のとおり質問や意見をいただいた。

(委 員) 議題はあがっているが、まず何をしなければいけないのか。

(事務局) 学校運営協議会制度へ社会教育がどのように関わればよいかを協議願いたい。

(委 員) 単に話し合えばいいのか、何かまとめたものを出さないといけないのか。今後の流れを詳しく聞かせてほしい。

(事務局) 2 年間で協議いただき、提言書として取りまとめていただきたい。

(議 長)社会教育というのは、自由にやってというように読み取れるが、教育長の意向はどのような感じなのか。

(事務局)7月12日の第1回の会議で教育長のあいさつでもあったが、学校運営協議会を設置して地域住民等と協力し合いながら取り組んでいる中で、地域住民等の関わりが非常に大きいことから、同制度に対して社会教育がどのような関わりができるかといったお話があった。

(議 長)社会教育委員の会であるから、本市にはないが教育振興基本計画や社会教育計画を立てるとしたときに、このコミュニティ・スクールをどのようにまとめるのかというような理解でいいのか。

(事務局)そのような捕まえ方と思っている。令和3年度に提言を頂戴しているが、それから数年経っている。社会情勢も変化している中で改めて忌憚のない意見をいただきたいというのが教育長の意向かと推察する。

(委 員)教育長のお考えは分からないが、今までは学校であつたら学校だけとかで、社会教育というところと少し分断されていて、地域での若者の参画や世代間の繋がりが薄いと認識している。それで、中学校の部活動の社会移行も含めて、より3世代が交流していく方法、そこに今の若い子どもたちがいかに地域、まちづくりに貢献していくか、この川西でどのように豊かな生活を送っていくかといったところを学校教育として社会教育への関わり方で何かでてくればいいかなと思う。

(委 員)先ほど議長がおっしゃった社会教育計画のたてる次期と今回の協議のタイミングが合ったらいいと思うが、そこはどうなのか。

(議 長)今のところ、教育振興基本計画もたてる予定がないので、社会教育計画という部分でコミュニティ・スクールを揚げるとしたらこうなるが、事業を推進していく上で参考にしてくださいといった意見書のようなものになる。

(委 員)提言というのは、一定の力を持つと思う。しかし、提言として出さないと進まないということはないと思うので、この社会教育委員の会で何に力を発揮させてもらえばいいのかが見えない。

学校運営協議会制度で社会教育がどう関わっていくのかというところでは、そもそも、学校をサポートする体制を構築することが大きかったと思う。それで教育を豊かにしていく。一時、学校の先生の責任といって丸投げしたものを、もう一度、地域に戻すというところが、学校運営協議会とか地域学校協働活動だったと思うが、社会教育からの立場からすると学校教育にどんどん吸収されて学校一元化みたいなものに懸念を感じていたが、この制度が進む中で子どもたちが地域社会の人たちと関わって地域を知ったり、大人と出会っていくという効果は明らかに出てきている。

その部分で何か社会教育の関わり方で何か活用していけるようになればいいなと思っている。

また、学校運営協議会は、市民が意見を言える場所で、そこに当事者の子どもたちをどう入れて

いくつか。大人と子どものことでは、対等にパートナーとし社会の中で自分に関わることをきちんと捉えて意見が言えるように育てていくというのが社会教育の大きな役割だと思う。

（議長）社会教育というより地域教育という視点でコミュニティ・スクールを見る。学校運営協議会を学校ではなく、軸足を子どもでもいいし大人でもいいが、地域教育推進に向けたコミュニティ・スクールのあり方という捉え方もある。

（委員）やはり、教育長の意向を酌んで、協議したい内容は何かを提示していただいた上で、その中のどこをどのように議論すべきかを示していただかないと何を発言したらいいかわかりにくい状況にある。令和3年度の提言書を見直すにしても目的から見直すのか、目的を変えずに少しだけ変えるのか。現在、文部科学大臣諮問で生涯学習部会が立ち上がっているが、そこと連動させるのか、川西市教育大綱や国及び県の教育振興基本計画とどのように位置付けていきたいのかなど、教育委員会側として何をしていくことが川西市の教育活動に求められるかを具体的に示してほしい。

（委員）その辺りははっきりした方がいいと思うが、私が持ってきた資料で【新規募集：「学びの深化」実践先】というものを出している。牧の台小学校の方で市の指定研究を取ればと思い、申請をしたところだが、学校運営協議会を核として地域と連携した課題解決学習を学校行事の中で取り組むということで、来年度から目指して指定研究を取れなくても、学校の研究テーマでやっていこうと考えている。

議長がおっしゃったように、地域教育推進に向けたコミュニティ・スクールのあり方、地域教育推進に向けた学校運営協議会ということで、もっと子どもが地域に出て行くべきであろうし、一緒に何かをするべきで、地域教育推進やまちづくりを進めていくべきであろうと考えており、学校教育のカリキュラムで生活科であったり、総合的な学習の時間の中でまちづくりを位置付けて、一緒に地域の方とやっていこうと思っている。

公民館はないが、隣の地区の東谷公民館に参画していただいたり、川西市郷土館とも一緒になり、まちづくりなどで授業を組みながら、子どもが出て行き、いつの間にか一緒に顔見知りになって、一緒にやっているようになればいいかなと思っている。

この制度が立ち上がって6年になるが、学校に地域の方が入ってくるものが増えているが、いかに学校が外に出るために授業に組み込むなど、違ったアプローチをしていこうと思っている。

（議長）地域学校協働活動のコンセプトは双方向だ。学校支援ではないという部分があって、いろんな実践を見ても大体が学校支援になっている。放課後子ども教室もそう。現状がどうなんだという思いがありながら、地域教育とか社会教育、若しくはまちづくり、ひとづくり、まなびづくりという観点でコミュニティ・スクールとどう関わるのかといった切り口はある。

社会教育委員としては、そのような立ち位置で協議できるのかなと思う。

（委員）宝塚市の長尾台小学校では、宝塚市まちづくり協議会が地域を見直すということで、地域教育を行っている。長尾台小学校が設立されたのが、昭和50年代でそれほどの歴史がなくても学校の建つ前の様子がどうなったのかなど、地域学習で行いやすいのは地域の足元からと思う。

学校の近隣を歩いて、このまちはなぜこうなったかななどを子どもたちとそこに住む方々と一緒に行えば、地域全体に学習の成果を残していけると思う。

(委員)実践の報告をさせていただく。加茂小学校の学校運営協議会委員に就任している。また、加茂小コミュニティの広報を8年ほどしている。2023年に川西南中学校で学校運営協議会が始まり、小学校や幼稚園、こども園でも始めないといけないときに、地域が学校に関わるということで地域の広報に学校運営協議会のことをコミュニティだよりにコミュニティ・スクールが始まって、こんなことをするんですよといったお知らせをした。ホームページに載せたりもした。

そこで、今行っている活動として中学校では、放課後子ども教室で学校支援に入ったりもするが、中学生にお祭りのお手伝いに来てもらったり、小学校の夏休みの料理教室に、料理教室を経験した中学生にお手伝いに来てもらったりし、それを地域の人にお知らせをしている。興味をもってもらえたらと発信はしているが、自分自身が市から言われて行っている感じがあり、地域の皆さんも何か言われたからやっているといった感じで、まだまだ温度感があると感じている。

(議長)学校評議員が変わって、学校運営協議会になったという視点ではなく、従来から公民館を中心に地域教育を行ってきた。いろいろ課題がある中でコミュニティ・スクールができたが、それを地域の側からの視点で見るということ。

(教育保育課長)いろいろな学校運営協議会の見方があると参考になったが、こちらが教育委員会の意向を十分に伝えられていない部分がある。今後、具体的なことを絞って行けたらと思う。

(議長)ただ、地域によっては、しっかりと引き取って行っているところもある。地域で放課後子ども教室を使って、地域活動を伸ばして行っている地域もある。

(指導主事)今、部活動が社会移行する方向にあるが、部活動は学校教育活動の中で行われていることで、地域に移行されたクラブは、学校教育活動の延長線上にあるといえはあるが、教えているのは地域の方という社会教育と学校教育の間ぐらいに位置しているのかと思っている。

今、中学校では、キャリア教育をすることになっているが、仕事をしておられる方に来ていただき、自分の仕事のことを話していただき、子どもたちの職業観を育てていくというのがあるが、教師がすべてキャリア教育をしていたところに地域の方に来ていただき、キャリア教育をしていたらいい。

仕事をされている講師の方とお話をして、子どもたちに説明しないといけないことから仕事に対する自分自身の考え方が整理できた。自分を振り返るきっかけになって学びにもなったとおっしゃっておられ、これが双方向にメリットがあることだなと思い、そこにやりがいや生きがいを求めているいたりで、学校だけで行ってきたことを地域の方にやっていただくことが増えて、学校教育なのか、社会教育なのか線引きがどんどんグレーになっていくのではと自分の感覚としてはある。

それが、教員の働き方改革に繋がる可能性もあるし、子どもたちの多様な学びには大きなメリットがあるので、この方向はどんどん発展させたいという思いはある。

その良さをどんどん発信することで、参加したいと思ってもらえる地域の方が増えないかと思うことはある。

(議 長) 地域の方から見たらサービslラーニングの提供という部分で、地域に住んでいる人がゲストティーチャーになるという視点。地域から見ると住んでいる人が中学生を教えに行くということ。そういった機会は有用感が高まったり、スキルが上がる機会になる。それが中学校区とかでより多様にできれば学校は助かるし、地域教育が向上することになる。

(指導主事) 何年か続けて来ていただいた方は、プレゼンが上手くなっていく。最初はしゃべっているだけだったのが、パワーポイントを使った資料を用意されたりで、子どもたちの食いつきもよくなっている。

(議 長) 双方向だ。地域から見れば学校をどう使うか。若しくは、高齢者のイベントがあるから校長先生に話しに来てと校長を引っ張り出すという、主体を地域に置く。それで、地域の教育力であったり、住んでいる人の有用感であったり、教育資源の発掘でいうところをコミュニティ・スクールを使って、どれだけできるかというところでは課題が見えてくる。

(副議長) 私的な意見だが、基本的に人格形成が教育だと考えている。教育というのは、学校だけでないと思っている。

地域の中では、色んなものが複合して絡み合っているからこれはこれといった分け方が出来ない。教育委員会が何を求めているのかということは、確かに必要だが何が問題なのか。すでに解決したものもあるだろうし、まだこのような問題を引きずっている。

それを解決するならどのような手法があるのかを、この社会教育委員の会でまとめていけたらと思うが。

(議 長) 社会教育委員の会としては、社会教育という視点、地域、子どもも含むが、学校から離れて住民という視点で住民の学びの充実や学びの分野における持続可能な地域づくりといった視点で国や県並びに他市の動向を見ながら川西版のコミスクができたらいいなというところから提案ができるのかなと思う。

そのプロセスで今どうなっているかと聞くのはいいが、一方でああしろ、こうしろといって予算を取れといってもできないので、社会教育の視点でコミスクをどうコミットさせるか議論を深めて提言を出せたらいいと思う。

以上で、3の議題を終了する。

4のその他で何かあるか。

(委 員) 2月8日に演劇に情熱を注いでいる若者、高校生だが、その演劇活動や文化活動を応援する取り組みをしており、文化ホールを借り切って、本物の舞台、機材、照明を使って表現する機会を提供するということでやっており、26回目を迎える。

既存の脚本を使っている学校もあるが、高校生自身が脚本を書いている作品もあり、特に家族観や親子の問題など、自己責任論では解決しない、個人の問題だけれども実は社会問題だったというようなテーマの作品もあり、今の高校生の生きづらさ、しんどさなど社会を変えていく必要を実感するような脚本が挙がっている。

もしよかったら見に来てほしい。

（議 長）その他、事務局から報告をお願いします。

（事務局）次回以降の会議日程だが、3月中を目処に日程調整をさせていただきたいと考えている。

他に、2月19日に阪神北地区社会教育委員協議会の第2回研修会を予定している。後日、委員の皆様案内するので予定しておいてほしい。

（議 長）重ねてになるが、今回も本市が担当するので、万障繰り合わせの上、参加していただきたい。

年明けの理事会で決定するため、仮ではあるが、兵庫教育大学の浅野名誉教授に地域協働に関する評価や推進についてお話しいただき、その後、各市町で協議をするという2本立てで計画しているので、参加方よろしくをお願いします。

以上で、令和6年第2回川西市社会教育委員の会を終了する。